

令和3年度 一般社団法人 埼玉県校外教育協会委嘱
校外教育研究紀要

研究主題

「心を込めた花で明るい街づくり」の活動を通して、
地域とともに育む心豊かな生徒の育成



和光市立第二中学校

〒351-0106 和光市広沢1-4

TEL 048-462-1793

FAX 048-462-1890

E-mail 2chu@wako-city.ed.jp

1 はじめに

本校は、今年、開校55周年を迎える。通常学級12学級、特別支援学級6学級を併せて全18学級、全校生徒490名の中規模校である。校訓「正しく 強く 美しく」のもと、学校教育目標・目指す学校像を達成すべく、教職員が一枚岩となって日々努力している。校区の東端に位置する和光市駅へは、有楽町線、副都心線の乗り入れ拡大により、都心部や横浜へ直結し、交通の利便性が優れていることから人口が増加傾向にある。その駅南側の商業地区と3つの大きな集合住宅グループがあり、そこに居住している生徒が大部分を占め、更には、学校選択制により市内全域から生徒が通っている。

東京2020の開催に伴い、陸上自衛隊朝霞訓練場が射撃競技の会場となり、和光市駅はアクセスポイントとなった。和光市では、「心を込めた花で明るい街づくり」（令和2年度市協働事業）をボランティア団体の「和光おもてなし隊」が立ち上げ、本校はモデル校として令和2年度より参画している。

2 研究概要

(1) 研究テーマ（主題）

「心を込めた花で明るい街づくり」の活動を通して、地域と共に育む心豊かな生徒の育成

(2) 研究テーマ設定の理由

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い1年延期された、東京2020の開催地の1つである和光市では、大会を盛り上げるために様々なイベントが計画され、実施してきた。

この一生に一度の「世紀の祭典に」に関われることは、私たちにとって大いに意義深いことである。モデル校としての具体的な活動は、各国から来場する選手・関係者への歓迎と多くの市民の関心、応援を求めめるために、学校で育成した花プランターを駅前広場に設置・展示するものである。学校では、地域の方々の支援をいただき、花の育成期間中生徒が熱心に世話をしてきた。この取り組みを通じて、オリンピック・パラリンピックの精神・意義の理解を深め、地域の方々との交流を通じて地域環境への環境美化への意識を高めていきたい。

(3) 研究のねらい

① 地域の環境を自分の手で守る意識を高める

地域の方々と土に触れ、花を育てる花育などの環境美化活動を通して、優しさ、美しさを感じる心を育成し、地域の行事への積極的な参画意識を高める。

② 東京オリンピック・パラリンピックへ出場する選手への応援

多様な国や地域の文化の理解を通じて、多様性の尊重や国際平和に寄与する態度と多様な人々が共に生きる社会の実現に不可欠な他者への共感や思いやりを培う。

③ ボランティアマインドの醸成

地域活動を通じて、自ら行動を起こし、実践することで生まれる喜びを通して、他人の役に立つことやボランティアの意義を理解する。

(4) 研究計画

令和 二 年 度	3月 和光市協働提案事業「心を込めた花で明るい街づくり」採択。 4月 和光市立第二中学校がモデル校に指定される。 11月 花苗(パンジー)学校搬入、植栽・育成が開始される。 12月 パンジーのプランター16台、駅前に展示。	令和 三 年 度	2月 おもてなし隊による「オリンピック・パラリンピック教室」中止。 4月 「心を込めた花で明るい街づくり」の集い 中止。 5月 夏季花苗(マリーゴールド・日々草)植栽、育成開始。 7月 プランター16台、駅前に展示。 7月 「心を込めた花で明るい街づくり」の集い開催。 (活動体験記をビデオ出演にて発表) 7月 聖火リレー見学中止。
期 待 さ れ る 成 果	・プランターの花苗の育成を通して、地域の方々とのあたたかい交流が生まれ、地域の環境美化への意識を高め、地元愛が育まれる。 ・オリンピック・パラリンピックの精神・意義の理解が深められる。 ・スポーツへの関心を高め、普段接することの少ない競技、オリンピック、パラリンピックへの理解が深められる。		



3 具体的な取組

(1) 緑化を含めた環境整備 (パンジー植栽に備えた堆肥づくり)

落ち葉が大量に集まるため、通学路や校内の落ち葉掃きと堆肥・腐葉土づくり。(R2. 10月～11月)

(2) パンジーの植栽 和光おもてなし隊によるパンジーの花苗、プランター16台、腐葉土10袋が学校に搬入され、全学級毎に植栽、毎日の手入れが始まる。(R2. 11月)



(3) 和光市駅前への展示 「2020東京オリンピック・パラリンピック」は1年延期されたが、学校でのパンジー・ビオラの植栽を行い、12月から5ヶ月間、展示される。

(4) 卒業証書授与式に展示 感染症対策を施した卒業式であったが、駅前の展示から本校に戻ったパンジー・ビオラのプランターも卒業生の門出を祝福した。(R3. 3月)



(5) 「開会式秒読み」いよいよオリンピック・パラリンピックを盛り上げる時。前年秋に植栽したパンジー・ビオラが7ヶ月経過し、その役目を終える時期になった。本校育成のプランターでは、夏花苗(マリーゴールド・ニチニチソウ)の植え付けが始まり、和光市駅前に展示し、競技の開催を待つのみとなった。(R3. 6月)



- (6) おもてなし隊「心を込めた花で明るい街づくり」の集い 本校を代表して、3年生の整美委員長、2年生の副整美委員長がビデオ出演し、これまでの本校の活動状況の説明やオリンピック・パラリンピックへの期待感を発表した。(R3.7月)

和光おもてなし隊 オリンピック・パラリンピック教室

「心を込めた花で明るい街づくり」の集い

○日時 令和3年7月3日(土)午後2時

○会場 和光市中央公民館2階会議室1

○内容 世界の国旗の話、啓発動画、五輪折鶴体験、児童・生徒の作文発表 他

※ 新型コロナ感染予防にご協力ください (定員48人)



- (7) 「東京2020」後も引き継がれるプランター

和光市駅前へ引き続き展示されることが決まり、パンジーの植栽を行う。



4 成果と課題

東京オリンピック・パラリンピックの招致の際、「おもてなし」が話題となった。「おもてなし」とは「表裏がない心で客を歓待する」という意味が込められている。古来より息づく日本人の心、そのものであると語られている。この「おもてなし」を実現するために花いっぱいのプランターで遠方から和光市を訪れる人々を歓待する取り組みは、尊い活動であると考えられる。この取組を通じて、本校の生徒が「おもてなし」の真髄とは何かを考えさせられる素晴らしい機会となった。この体験活動を通して、一人一人に住みよい社会・地域を築くために大切なことは何か、考えさせる体験活動であった。

(1) 研究の成果

- ・花育は、手間も時間もかかるが、その分大きく可憐に成長したプランターを見たとき花は、生き物で、丹精込めた花はきれいに咲くことの実感が持てた。
- ・本校での育成期間中、熱心に観察し、おもてなし隊の方々の指導・支援を通じた交流により地域行事への参加意欲を高め、学校や地域の環境を「自分の手で創る」という意識が高まった。

(2) 今後の課題

オリンピックの延期により、おもてなし隊の方々と連携した活動を長期間持続させるための日程調整や事前準備が充分にできなかった。

